

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公表特許公報(A)

(11)公表番号

特表2023-540871

(P2023-540871A)

(43)公表日 令和5年9月27日(2023.9.27)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード(参考)
A 0 1 N 31/02 (2006.01)	A 0 1 N 31/02	4 H 0 1 1
A 0 1 P 3/00 (2006.01)	A 0 1 P 3/00	
A 0 1 N 25/04 (2006.01)	A 0 1 N 25/04 1 0 1	

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全24頁)

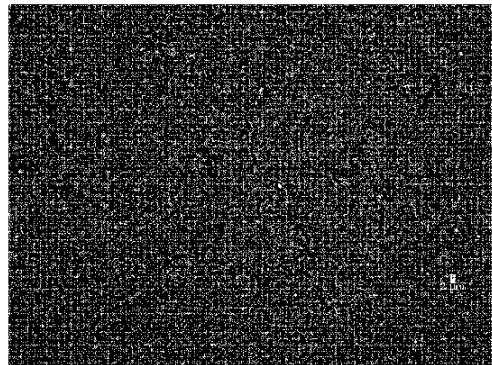
(21)出願番号	特願2023-509456(P2023-509456)	(71)出願人	506213681
(86)(22)出願日	令和3年9月1日(2021.9.1)		アモーレパシフィック コーポレーション
(85)翻訳文提出日	令和5年2月8日(2023.2.8)		AMOREPACIFIC CORPO
(86)国際出願番号	PCT/KR2021/011750		RATION
(87)国際公開番号	WO2022/050680		大韓民国 ソウル特別市 龍山区 漢江大路
(87)国際公開日	令和4年3月10日(2022.3.10)		1 0 0
(31)優先権主張番号	10-2020-0113608		1 0 0 , H a n g a n g - d a e r o ,
(32)優先日	令和2年9月7日(2020.9.7)		Y o n g s a n - g u , S e o u l ,
(33)優先権主張国・地域又は機関	韓国(KR)	(74)代理人	R e p u b l i c o f K o r e a
			110000556
(31)優先権主張番号	10-2021-0113325		弁理士法人有古特許事務所
(32)優先日	令和3年8月26日(2021.8.26)	(72)発明者	ソ, ボヒョン
(33)優先権主張国・地域又は機関	韓国(KR)		大韓民国 1 7 0 7 4 キョンギ-ドヨ
			ンイン-シ ギフン-ク ヨンク-デロ
(81)指定国・地域	AP(BW,GH,GM,KE,LR,LS,MW,MZ,NA		1 9 2 0 アモーレパシフィック アール
	最終頁に続く		最終頁に続く

(54)【発明の名称】 エマルジョン剤形の消毒剤組成物

(57)【要約】

本願には、エマルジョン剤形の消毒剤組成物が開示される。前記消毒剤組成物は、エタノール、界面活性剤、オイル及び水を含む。前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に10重量%を超える。前記界面活性剤は、レシチン系界面活性剤及びソルビタン系界面活性剤のうちの1以上であってよく、前記オイルは、C12~15の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択される1以上であってよい。前記消毒剤組成物は、エタノールを多量含有し且つ高い保湿感を提供し、ローションのようなエマルジョン剤形を具現する効果がある。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

エタノール；
界面活性剤；
オイル；及び
水を含み、

前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 10 重量%を超える、エマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項 2】

前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 20 重量%以上、30 重量%以上、55 重量%以上、60 重量%以上、65 重量%以上又は 70 重量%以上である、請求項 1 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

10

【請求項 3】

前記界面活性剤は、レシチン系界面活性剤及びソルビタン系界面活性剤のうちの 1 以上である、請求項 1 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項 4】

前記レシチン系界面活性剤は、レシチン、水添レシチン及び合成レシチンからなる群より選択される 1 以上である、請求項 3 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項 5】

前記ソルビタン系界面活性剤は、ソルビタン脂肪酸エステルである、請求項 3 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

20

【請求項 6】

前記ソルビタン系界面活性剤は、ソルビタンオリベート、ステアリン酸ソルビタン、イソステアリン酸ソルビタン、トリストアリン酸ソルビタン、セスキステアリン酸ソルビタン、ソルビタンパルミテート、ラウリン酸ソルビタン、ソルビタンオリエート、ソルビタンセスキオリエート、ソルビタントリオリエート、ステアリン酸ソルビタン/ラウリン酸ソルビチル、モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタン、ポリソルベート 20、ポリソルベート 40、ポリソルベート 60、ポリソルベート 61、ポリソルベート 65、ポリソルベート 80 及びポリソルベート 85 からなる群より選択される 1 以上である、請求項 3 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

30

【請求項 7】

前記界面活性剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0.1 重量%超～5 重量%未満で含まれる、請求項 1 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項 8】

前記オイルは、C12～15 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択される 1 以上である、請求項 1 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項 9】

前記オイルは、消毒剤組成物の全重量を基準に 1 重量%超～16 重量%未満で含まれる、請求項 1 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

40

【請求項 10】

前記界面活性剤とオイルとは、前記界面活性剤及びオイル成分の重量の割合を基準に 0.3～3:5 の割合で存在する、請求項 1 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項 11】

当該消毒剤組成物は、増粘剤、ポリオール及び pH 調節剤のうちの 1 以上の添加剤をさらに含むものである、請求項 1 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項 12】

前記添加剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0.5～2.0 重量%で含まれる、請求項 11 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項 13】

50

当該消毒剤組成物は、100～10,000cpsの粘度を有するものである、請求項1に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項14】

当該消毒剤組成物は、平均大きさが1～10μmのエマルジョン粒子を有するものである、請求項1に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項15】

当該消毒剤組成物はO/Wである、請求項1に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項16】

当該消毒剤組成物は皮膚消毒剤組成物である、請求項1に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。 10

【請求項17】

当該消毒剤組成物は手指消毒剤組成物である、請求項1に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【請求項18】

当該消毒剤組成物は皮膚外用剤組成物である、請求項1に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】 20

[関連出願への相互参照]

本出願は、2020年09月07日付で出願された大韓民国特許出願第10-2020-0113608号及び2021年08月26日付で出願された大韓民国特許出願第10-2021-0113325号に基づく優先権を主張し、この出願内容全体が本出願に参照として組み込まれる。

【0002】

本願にはエマルジョン剤形の消毒剤組成物が開示される。

【背景技術】

【0003】

個人の衛生管理にとって最も重要なことは、細菌やウイルスに非常に頻りに曝される手の清潔である。したがって、流れる水に手をよく洗ったり、水のない環境では手指消毒剤を使用したりして細菌やウイルスからの感染を予防することが肝要である。手指消毒剤は、細菌やウイルスに頻りに曝される手指を簡便に消毒できるようにした消毒薬の一種であって、一般的にエタノールを用いた手指消毒剤が最も広く用いられている。 30

【0004】

しかし、エタノールを用いた手指消毒剤を製造する際にオイルを添加する場合、O/Wエマルジョン剤形を形成しにくい問題がある。そのため、従来のエタノールを用いた手指消毒剤は液体又はゲルの剤形を有するという制限がある。エタノールに精製水やグリセリンのような保湿剤成分を追加して液体剤形にするか、増粘剤成分を追加してゲル剤形にしたわけである。その他、スプレー形態で噴射できるようにした製品もある。 40

【0005】

また、エタノールを用いた手指消毒剤は、エタノール成分によって肌刺激、肌乾燥を誘発し、ひどい場合は肌がひりひりして肌の皮が剥がれて、手指消毒剤の使用に対する嗜好度が非常に低い。特に、このような手指消毒剤の触感が嫌ってその使用を拒否する人々もいる。したがって、個人衛生を守り且つ細菌やウイルスからの感染を予防するために、日常生活で頻りに使用が求められる手指消毒剤において、消費者又は使用者の嗜好度が大きく改善された製品が求められている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】 50

【特許文献1】国際公開第2020-104553号

【非特許文献】

【0007】

【非特許文献1】FERREIRA, A., C. et al., Influence of Ethanol on Emulsions Stabilized by Low Molecular Weight Surfactants, Journal of Food Science, 2020, vol.85, pp.28-35

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

一側面において、本開示は、エマルジョン剤形の消毒剤組成物を提供することを目的とする。 10

【0009】

他の側面において、本開示は、エタノールとオイルを含有し、エマルジョン剤形を有する消毒剤組成物を提供することを目的とする。

【0010】

また他の側面において、本開示は、エタノールとオイルを含有し、O/Wエマルジョン剤形を有する消毒剤組成物を提供することを目的とする。

【0011】

さらに他の側面において、本開示は、エタノールを10重量%以上含有するエマルジョン剤形の消毒剤組成物を提供することを目的とする。 20

【0012】

さらに他の側面において、本開示は、エタノールを高含量、例えば、30重量%以上、又は40重量%以上、さらには50重量%以上又は60重量%含有するエマルジョン剤形の消毒剤組成物を提供することを目的とする。

【0013】

さらに他の側面において、本開示は、エタノールを高含量、例えば、30重量%以上、又は40重量%以上、さらには50重量%以上又は60重量%含有し、O/Wエマルジョン剤形を有する消毒剤組成物を提供することを目的とする。

【0014】

さらに他の側面において、本開示は、エタノールを含有し且つ肌保湿力に優れるエマルジョン剤形の消毒剤組成物を提供することを目的とする。 30

【課題を解決するための手段】

【0015】

一側面において、本開示は、エタノール；界面活性剤；オイル；及び水を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に10重量%を超える、エマルジョン剤形の消毒剤組成物を提供する。

【発明の効果】

【0016】

一側面において、本開示に開示された技術は、エマルジョン剤形の消毒剤組成物を提供する効果がある。 40

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】本開示の一実施例における実施例2-1による消毒剤組成物のエマルジョン粒子を光学顕微鏡で観察した写真を示す。実施例2-1による消毒剤組成物は、均一且つ安定したエマルジョン粒子を形成し、エマルジョン粒子は1~5 μ mの平均大きさを有することが確認された。

【図2】本開示の一実施例における比較例2-5による消毒剤組成物のエマルジョン粒子を光学顕微鏡で観察した写真を示す。比較例2-5による消毒剤組成物は、オイル分離現象が起きて不安定且つ不均一なエマルジョン粒子を形成し、エマルジョン粒子は10 μ mを超える平均大きさを有することが確認された。 50

【図 3】本開示の一実施例における市販中の透明なゲル剤形の手指消毒剤組成物（写真中の左側の剤形）と実施例 2-1 による消毒剤組成物（写真中の右側の剤形）を目視で比較観察した写真を示す。市販中の手指消毒剤組成物は、透明なゲル剤形であるため底の黒色があるまま映って黒く見え、実施例 2-1 による消毒剤組成物は、乳色のローションタイプの O/W エマルジョン剤形を有することが確認された。

【発明を実施するための形態】

【0018】

以下、本開示を詳しく説明する。

【0019】

一側面において、本開示は、エタノール；界面活性剤；オイル；及び水を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 10 重量%を超える、エマルジョン剤形の消毒剤組成物を提供する。

10

【0020】

他の側面において、本開示は、エマルジョン剤形の消毒剤組成物を製造するための組み合わせの用途であり、前記組み合わせは、エタノール；界面活性剤；オイル；及び水を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 10 重量%を超える、エマルジョン剤形の消毒剤組成物を製造するための組み合わせの用途を提供する。

【0021】

また他の側面において、本開示は、消毒及び/又は保湿のための組成物の用途であり、前記組成物は、エマルジョン剤形であり、前記組成物は、エタノール；界面活性剤；オイル；及び水を含み、前記エタノールの含量は、組成物の全重量を基準に 10 重量%を超える、消毒及び/又は保湿のための組成物の用途を提供する。

20

【0022】

さらに他の側面において、本開示は、消毒及び/又は保湿に有効な量の組成物を、これを必要とする対象に適用することを含む消毒及び/又は保湿方法であり、前記組成物は、エマルジョン剤形であり、前記組成物は、エタノール；界面活性剤；オイル；及び水を含み、前記エタノールの含量は、組成物の全重量を基準に 10 重量%を超える、消毒及び/又は保湿方法を提供する。

【0023】

さらに他の側面において、本開示は、消毒剤組成物の製造方法であって、エタノール；界面活性剤；オイル；及び水を混合する段階を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 10 重量%を超える、エマルジョン剤形の消毒剤組成物の製造方法を提供する。

30

【0024】

例示的な一具現例において、前記消毒は皮膚消毒であってよい。

【0025】

例示的な一具現例において、前記消毒は手指消毒であってよい。

【0026】

例示的な一具現例において、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 20 重量%以上、30 重量%以上、55 重量%以上、60 重量%以上、65 重量%以上又は 70 重量%以上であってよい。

40

【0027】

他の例示的な一具現例において、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 10 重量%超、15 重量%以上、20 重量%以上、25 重量%以上、30 重量%以上、35 重量%以上、40 重量%以上、45 重量%以上、50 重量%以上、55 重量%以上、60 重量%以上、65 重量%以上、70 重量%以上又は 75 重量%以上であり、且つ 80 重量%未満、75 重量%以下、70 重量%以下、65 重量%以下、60 重量%以下、55 重量%以下、50 重量%以下、45 重量%以下、40 重量%以下、35 重量%以下、30 重量%以下又は 25 重量%以下であってよい。

【0028】

50

また他の例示的な一具現例において、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に10重量%超～80重量%未満であってよい。

【0029】

さらに他の例示的な一具現例において、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に20重量%以上～80重量%未満であってよい。

【0030】

さらに他の例示的な一具現例において、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に20～75重量%であってよい。

【0031】

さらに他の例示的な一具現例において、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に30～75重量%であってよい。

10

【0032】

さらに他の例示的な一具現例において、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に40～75重量%であってよい。

【0033】

さらに他の例示的な一具現例において、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に50～75重量%であってよい。

【0034】

例示的な一具現例において、前記界面活性剤は、レシチン系界面活性剤及びソルビタン系界面活性剤のうちの1以上であってよい。

20

【0035】

例示的な一具現例において、前記レシチン系界面活性剤は、レシチン、水添レシチン及び合成レシチンからなる群より選択される1以上であってよい。

【0036】

例示的な一具現例において、前記レシチン系界面活性剤は、レシチンであってよい。

【0037】

例示的な一具現例において、前記ソルビタン系界面活性剤は、ソルビタン脂肪酸エステルであってよい。

【0038】

例示的な一具現例において、前記ソルビタン系界面活性剤は、ソルビタンオリベート(Sorbitan Oliv ate)、ステアリン酸ソルビタン(Sorbitan Stearate)、イソステアリン酸ソルビタン(Sorbitan Isoste arate)、トリステアリン酸ソルビタン(Sorbitan Triste arate)、セスキステアリン酸ソルビタン(Sorbitan Sesquistearate)、ソルビタンパルミテート(Sorbitan Palmitate)、ラウリン酸ソルビタン(Sorbitan Laurate)、ソルビタンオリエート(Sorbitan Oleate)、ソルビタンセスキオリエート(Sorbitan Sesquioleate)、ソルビタントリオリエート(Sorbitan Trioleate)、ステアリン酸ソルビタン/ラウリン酸ソルビチル(Sorbitan Stearate and Sorbityl Laurate)、モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタン(Polyoxyethylene Sorbitan Monolaurate)、ポリソルベート20、ポリソルベート40、ポリソルベート60、ポリソルベート61、ポリソルベート65、ポリソルベート80及びポリソルベート85からなる群より選択される1以上であってよい。

30

40

【0039】

例示的な一具現例において、前記ソルビタン系界面活性剤は、モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタンであってよい。

【0040】

例示的な一具現例において、前記界面活性剤は、レシチン及びモノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタンのうちの1以上であってよい。

50

【 0 0 4 1 】

例示的な一具現例において、前記界面活性剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0 . 1 重量%超 ~ 5 重量%未満で含まれてよい。

【 0 0 4 2 】

他の例示的な一具現例において、前記界面活性剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0 . 1 重量%超、0 . 1 3 重量%以上、0 . 1 5 重量%以上、0 . 1 7 重量%以上、0 . 2 重量%以上、0 . 2 3 重量%以上、0 . 2 5 重量%以上、0 . 2 7 重量%以上、0 . 3 重量%以上、0 . 3 3 重量%以上、0 . 3 5 重量%以上、0 . 3 7 重量%以上、0 . 4 重量%以上、0 . 4 3 重量%以上、0 . 4 5 重量%以上、0 . 4 7 重量%以上、0 . 5 重量%以上、0 . 5 3 重量%以上、0 . 5 5 重量%以上、0 . 5 7 重量%以上、0 . 6 重量%以上、0 . 6 3 重量%以上、0 . 6 5 重量%以上、0 . 6 7 重量%以上、0 . 7 重量%以上、0 . 7 3 重量%以上、0 . 7 5 重量%以上、0 . 7 7 重量%以上、0 . 8 重量%以上、0 . 8 3 重量%以上、0 . 8 5 重量%以上、0 . 8 7 重量%以上、0 . 9 重量%以上、0 . 9 3 重量%以上、0 . 9 5 重量%以上、0 . 9 7 重量%以上、1 . 0 重量%以上、1 . 3 重量%以上、1 . 5 重量%以上、1 . 7 重量%以上又は 2 重量%以上であり、且つ 5 重量%未満、4 . 7 重量%以下、4 . 5 重量%以下、4 . 3 重量%以下、4 重量%以下、3 . 7 重量%以下、3 . 5 重量%以下、3 . 3 重量%以下、3 重量%以下、2 . 7 重量%以下、2 . 5 重量%以下、2 . 3 重量%以下、2 重量%以下、1 . 7 重量%以下、1 . 5 重量%以下、1 . 3 重量%以下又は 1 重量%以下で含まれてよい。

10

【 0 0 4 3 】

また他の例示的な一具現例において、前記界面活性剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0 . 2 ~ 4 重量%で含まれてよい。

20

【 0 0 4 4 】

さらに他の例示的な一具現例において、前記界面活性剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0 . 3 ~ 3 重量%で含まれてよい。

【 0 0 4 5 】

さらに他の例示的な一具現例において、前記界面活性剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0 . 5 ~ 2 重量%で含まれてよい。

【 0 0 4 6 】

さらに他の例示的な一具現例において、前記界面活性剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 1 ~ 2 重量%で含まれてよい。

30

【 0 0 4 7 】

例示的な一具現例において、前記オイルは、C 1 2 ~ 1 5 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択される 1 以上であってよい。

【 0 0 4 8 】

例示的な一具現例において、前記オイルは、C 1 2 ~ 1 5 の安息香酸アルキルであってよい。

【 0 0 4 9 】

例示的な一具現例において、前記オイルは、消毒剤組成物の全重量を基準に 1 重量%超 ~ 1 6 重量%未満で含まれてよい。

40

【 0 0 5 0 】

他の例示的な一具現例において、前記オイルは、消毒剤組成物の全重量を基準に 1 重量%超、1 . 2 重量%以上、1 . 4 重量%以上、1 . 5 重量%以上、1 . 6 重量%以上、1 . 8 重量%以上、2 重量%以上、2 . 2 重量%以上、2 . 4 重量%以上、2 . 5 重量%以上、2 . 6 重量%以上、2 . 8 重量%以上、3 重量%以上、3 . 2 重量%以上、3 . 4 重量%以上、3 . 5 重量%以上、3 . 6 重量%以上、3 . 8 重量%以上、4 重量%以上、4 . 2 重量%以上、4 . 4 重量%以上、4 . 5 重量%以上、4 . 6 重量%以上、4 . 8 重量%以上、5 重量%以上、5 . 2 重量%以上、5 . 4 重量%以上、5 . 5 重量%以上、5 . 6 重量%以上、5 . 8 重量%以上、又は 6 重量%以上であり、且つ 1 6 重量%未満、1 5

50

． 8 重量 % 以下、 1 5 . 6 重量 % 以下、 1 5 . 4 重量 % 以下、 1 5 . 2 重量 % 以下、 1 5 重量 % 以下、 1 4 . 8 重量 % 以下、 1 4 . 6 重量 % 以下、 1 4 . 4 重量 % 以下、 1 4 . 2 重量 % 以下、 1 4 重量 % 以下、 1 3 . 8 重量 % 以下、 1 3 . 6 重量 % 以下、 1 3 . 4 重量 % 以下、 1 3 . 2 重量 % 以下、 1 3 重量 % 以下、 1 2 . 8 重量 % 以下、 1 2 . 6 重量 % 以下、 1 2 . 4 重量 % 以下、 1 2 . 2 重量 % 以下、 1 2 重量 % 以下、 1 1 . 8 重量 % 以下、 1 1 . 6 重量 % 以下、 1 1 . 4 重量 % 以下、 1 1 . 2 重量 % 以下、 1 1 重量 % 以下、 1 0 . 8 重量 % 以下、 1 0 . 6 重量 % 以下、 1 0 . 4 重量 % 以下、 1 0 . 2 重量 % 以下、 1 0 重量 % 以下、 9 . 8 重量 % 以下、 9 . 6 重量 % 以下、 9 . 4 重量 % 以下、 9 . 2 重量 % 以下、 9 重量 % 以下、 8 . 8 重量 % 以下、 8 . 6 重量 % 以下、 8 . 4 重量 % 以下、 8 . 2 重量 % 以下、 8 重量 % 以下、 7 . 8 重量 % 以下、 7 . 6 重量 % 以下、 7 . 4 重量 % 以下、 7 . 2 重量 % 以下、 7 重量 % 以下、 6 . 8 重量 % 以下、 6 . 6 重量 % 以下、 6 . 4 重量 % 以下、 6 . 2 重量 % 以下、 6 重量 % 以下、 5 . 8 重量 % 以下、 5 . 6 重量 % 以下、 5 . 4 重量 % 以下、 5 . 2 重量 % 以下又は 5 重量 % 以下で含まれてよい。

10

【 0 0 5 1 】

また他の例示的な一具現例において、前記オイルは、消毒剤組成物の全重量を基準に 2 ~ 1 5 重量 % で含まれてよい。

【 0 0 5 2 】

さらに他の例示的な一具現例において、前記オイルは、消毒剤組成物の全重量を基準に 2 ~ 6 重量 % で含まれてよい。

20

【 0 0 5 3 】

例示的な一具現例において、前記界面活性剤とオイルとは、前記界面活性剤及びオイル成分の重量の割合を基準に 0 . 3 ~ 3 : 5 の割合で存在してよい。

【 0 0 5 4 】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は、増粘剤、ポリオール及び p H 調節剤のうち 1 以上の添加剤をさらに含むものであってよい。

【 0 0 5 5 】

例示的な一具現例において、前記組み合わせは、増粘剤、ポリオール及び p H 調節剤のうち 1 以上の添加剤をさらに含むものであってよい。

【 0 0 5 6 】

例示的な一具現例において、前記増粘剤は、グアーガム、キサントガム、ジェランガム、カラギナンガム、セルロース、寒天、ペクチン、カルボマー、ナトリウムマグネシウムシリケート、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルスターチホスフェート及びヒドロキシエチルアクリレート / ナトリウムアクリロイルジメチルタウレートコポリマーからなる群より選択される 1 以上であってよい。

30

【 0 0 5 7 】

例示的な一具現例において、前記ポリオールは、グリセリン、ブチレングリコール、ジプロピレングリコール、ペンチレングリコール、ヘキシレングリコール、ジエチレングリコール、プロパンジオール、カプリルグリコール、メチルプロパンジオール、ポリブチレングリコール- 1 0、ポリグリセリン- 3、ポリグリセリン- 4、ポリグリセリン- 6、ポリグリセリン- 1 0、ポリグリセリン- 2 0、ポリグリセリン- 4 0、ソルベス- 5、ソルベス- 6、ソルベス- 2 0、ソルベス- 3 0、ソルベス- 4 0、ジヒドロキシプロピル P G- グルコシド、ジチアオクタジオール、フルクトース、グルカミン、メチルグルカミン、グルコース、メチルグルコース- 1 0、メチルグルコース- 2 0、フィタントリオール、チオグリセリン、ジグリセリン、ソルビトール、エリスリトール、ペンタエリスリトール、イノシトール、マンニトール、マルトース、マンナン、マルチトール、マンノース、ラクチトール、ラクトース、トレイトール、トリメチロールプロパン及びキシリトールからなる群より選択される 1 以上であってよい。

40

【 0 0 5 8 】

例示的な一具現例において、前記 p H 調節剤は、リン酸及びその塩類、乳酸とその塩類、グリコール酸とその塩類、クエン酸とその塩類、酢酸、アンモニア、モノエタノールア

50

ミン、トリエタノールアミン、水酸化カリウム、水酸化ナトリウム、炭酸ナトリウム及びアミノメチルプロパノールからなる群より選択される1以上であってよい。

【0059】

例示的な一具現例において、前記添加剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に0.5~2.0重量%に含まれてよい。

【0060】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は、30で100~10,000cpsの粘度を有するものであってよい。本願に開示された消毒剤組成物は、約6,000cpsを超える粘度を有するO/Wエマルジョン剤形の形成が可能である。これは、従来の約100cps未満の粘度を有する液体剤形又は約2,000~6,000cpsの粘度を有するゲル剤形の消毒剤組成物よりも高い粘度を有し得ることを意味する。既存の消毒剤組成物は、エタノールを含有する場合、特にエタノールを多量含有する場合、オイルを添加してこれを安定化させたO/Wエマルジョン剤形を形成し難かった。一側面において、本開示に開示された技術は、エタノールを用いた消毒剤組成物においてオイルを添加してO/Wエマルジョン剤形を形成し且つ優れた保湿力を提供する効果がある。

10

【0061】

他の例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は、30で100cps以上、200cps以上、300cps以上、400cps以上、500cps以上、600cps以上、700cps以上、800cps以上、900cps以上、1,000cps以上、2,000cps以上、3,000cps以上、4,000cps以上、5,000cps以上、6,000cps以上又は6,000cps超であり、且つ10,000cps以下、9,000cps以下、8,000cps以下、7,000cps以下、6,000cps以下、5,000cps以下、4,000cps以下、3,000cps以下、2,000cps以下又は1,000cps以下の粘度を有するものであってよい。

20

【0062】

また他の例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は、30で500~9,000cps、1,000~9,000cps、2,000~9,000cps、500~5,000cps、1,000~3,000cps又は2,000~3,000cpsの粘度を有するものであってよい。

【0063】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は、平均大きさが1~10 μ mのエマルジョン粒子を有するものであってよい。前記平均大きさは平均粒径を意味することであってよい。

30

【0064】

他の例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は、平均大きさが1 μ m以上、2 μ m以上、3 μ m以上、4 μ m以上又は5 μ m以上であり、且つ10 μ m以下、9 μ m以下、8 μ m以下、7 μ m以下、6 μ m以下、5 μ m以下、4 μ m以下、3 μ m以下又は2 μ m以下のエマルジョン粒子を有するものであってよい。

【0065】

また他の例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は、平均大きさが1~5 μ m、2~5 μ m又は1~3 μ mのエマルジョン粒子を有するものであってよい。

40

【0066】

例示的な一具現例において、前記組成物は、消毒及び/又は保湿用組成物であってよい。

【0067】

例示的な一具現例において、前記組成物は、O/Wエマルジョン剤形の消毒及び/又は保湿用組成物であってよい。

【0068】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は、O/Wエマルジョン剤形のものであってよい。

50

【 0 0 6 9 】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は、O/Wエマルジョン剤形のエッセンス又はローションであってよい。

【 0 0 7 0 】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は皮膚消毒剤組成物であってよい。

【 0 0 7 1 】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は手指消毒剤組成物であってよい。

【 0 0 7 2 】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は皮膚外用剤組成物であってよい。

【 0 0 7 3 】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は化粧品組成物であってよい。

【 0 0 7 4 】

例示的な一具現例において、前記消毒剤組成物は医薬部外品組成物であってよい。

【 0 0 7 5 】

一側面において、本開示は、少なくとも下記の具現例を含む。

【 0 0 7 6 】

具現例 1 . エタノール ; 界面活性剤 ; オイル ; 及び水を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 1 0 重量 % を超える、エマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 7 7 】

具現例 2 . 前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 2 0 重量 % 以上、3 0 重量 % 以上、5 5 重量 % 以上、6 0 重量 % 以上、6 5 重量 % 以上又は 7 0 重量 % 以上である、具現例 1 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 7 8 】

具現例 3 . 前記界面活性剤は、レシチン系界面活性剤及びソルビタン系界面活性剤のうちの 1 以上である、具現例 1 又は具現例 2 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 7 9 】

具現例 4 . 前記レシチン系界面活性剤は、レシチン、水添レシチン及び合成レシチンからなる群より選択される 1 以上である、具現例 3 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 8 0 】

具現例 5 . 前記ソルビタン系界面活性剤は、ソルビタン脂肪酸エステルである、具現例 3 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 8 1 】

具現例 6 . 前記ソルビタン系界面活性剤は、ソルビタンオリベート、ステアリン酸ソルビタン、イソステアリン酸ソルビタン、トリステアリン酸ソルビタン、セスキステアリン酸ソルビタン、ソルビタンパルミテート、ラウリン酸ソルビタン、ソルビタンオリエート、ソルビタンセスキオリエート、ソルビタントリオリエート、ステアリン酸ソルビタン / ラウリン酸ソルビチル、モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタン、ポリソルベート 2 0、ポリソルベート 4 0、ポリソルベート 6 0、ポリソルベート 6 1、ポリソルベート 6 5、ポリソルベート 8 0 及びポリソルベート 8 5 からなる群より選択される 1 以上である、具現例 3 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 8 2 】

具現例 7 . 前記界面活性剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0 . 1 重量 % 超 ~ 5 重量 % 未満で含まれる、具現例 1 ~ 具現例 6 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 8 3 】

具現例 8 . 前記オイルは、C 1 2 ~ 1 5 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択される 1 以上である、具現例 1 ~ 具現例 7 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

10

20

30

40

50

【 0 0 8 4 】

具現例 9 . 前記オイルは、消毒剤組成物の全重量を基準に 1 重量% 超 ~ 1 6 重量% 未満で含まれる、具現例 1 ~ 具現例 8 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 8 5 】

具現例 1 0 . 前記界面活性剤とオイルとは、前記界面活性剤及びオイル成分の重量の割合を基準に 0 . 3 ~ 3 : 5 の割合で存在する、具現例 1 ~ 具現例 9 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 8 6 】

具現例 1 1 . 当該消毒剤組成物は、増粘剤、ポリオール及び pH 調節剤のうちの 1 以上の添加剤をさらに含むものである、具現例 1 ~ 具現例 1 0 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。 10

【 0 0 8 7 】

具現例 1 2 . 前記添加剤は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0 . 5 ~ 2 . 0 重量% で含まれる、具現例 1 1 に記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 8 8 】

具現例 1 3 . 当該消毒剤組成物は、1 0 0 ~ 1 0 , 0 0 0 c p s の粘度を有するものである、具現例 1 ~ 具現例 1 2 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 8 9 】

具現例 1 4 . 当該消毒剤組成物は、平均大きさが 1 ~ 1 0 μ m のエマルジョン粒子を有するものである、具現例 1 ~ 具現例 1 3 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。 20

【 0 0 9 0 】

具現例 1 5 . 当該消毒剤組成物は O / W である、具現例 1 ~ 具現例 1 4 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 9 1 】

具現例 1 6 . 当該消毒剤組成物は皮膚消毒剤組成物である、具現例 1 ~ 具現例 1 5 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 9 2 】

具現例 1 7 . 当該消毒剤組成物は手指消毒剤組成物である、具現例 1 ~ 具現例 1 6 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。 30

【 0 0 9 3 】

具現例 1 8 . 当該消毒剤組成物は皮膚外用剤組成物である、具現例 1 ~ 具現例 1 7 のいずれかに記載のエマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 9 4 】

具現例 1 9 . エタノール ; レシチン系界面活性剤及びソルビタン系界面活性剤のうちの 1 以上の界面活性剤 ; C 1 2 ~ 1 5 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択される 1 以上のオイル ; 及び水を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 1 0 重量% 超 ~ 8 0 重量% 未満である、エマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【 0 0 9 5 】

具現例 2 0 . エタノール ; レシチン系界面活性剤及びソルビタン系界面活性剤のうちの 1 以上の界面活性剤 ; C 1 2 ~ 1 5 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択される 1 以上のオイル ; 及び水を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 2 0 ~ 7 5 重量% である、エマルジョン剤形の消毒剤組成物。 40

【 0 0 9 6 】

具現例 2 1 . エタノール ; レシチン系界面活性剤及びソルビタン系界面活性剤のうちの 1 以上の界面活性剤 ; C 1 2 ~ 1 5 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択される 1 以上のオイル ; 及び水を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 2 0 ~ 7 5 重量% であり、前記界面活 50

性剤の含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0.3 ~ 3 重量% であり、前記オイルの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 2 ~ 15 重量% である、エマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【0097】

具現例 22 . エタノール；レシチン及びソルビタン脂肪酸エステルの中の 1 以上の界面活性剤；C12 ~ 15 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択される 1 以上のオイル；及び水を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 20 ~ 75 重量% であり、前記界面活性剤の含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0.3 ~ 3 重量% であり、前記オイルの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 2 ~ 15 重量% である、エマルジョン剤形の消毒剤組成物。

10

【0098】

具現例 23 . エタノール；レシチン及びモノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタンのうちの 1 以上の界面活性剤；C12 ~ 15 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択される 1 以上のオイル；及び水を含み、前記エタノールの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 20 ~ 75 重量% であり、前記界面活性剤の含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 0.3 ~ 3 重量% であり、前記オイルの含量は、消毒剤組成物の全重量を基準に 2 ~ 15 重量% である、エマルジョン剤形の消毒剤組成物。

【0099】

具現例 24 . エマルジョン剤形の消毒剤組成物であり、当該消毒剤組成物は、消毒剤組成物の全重量を基準に、エタノール 15 ~ 75 重量%；レシチン系界面活性剤及びソルビタン系界面活性剤からなる群より選択される界面活性剤 0.1 超 ~ 5.0 未満の重量%；C12 ~ 15 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル及びパームオイルからなる群より選択されるオイル 1.0 超 ~ 16.0 未満の重量%；及び残部として水を含み、前記界面活性剤とオイルとは、前記界面活性剤及びオイル成分の重量の割合を基準に 0.3 ~ 3 : 5 の割合で存在する、エマルジョン剤形の消毒剤組成物。

20

【0100】

以下、実施例を通じて本開示をより詳しく説明することにする。これらの実施例は単に本開示を例示するためのものであり、本開示の範囲がこれらの実施例によって制限されると解釈されないことは当業界で通常の知識を有する者にとって自明であろう。

30

【0101】

実施例 1 . エタノール含量の変化による剤形安定度及び消毒力の評価

下記表 1 の組成 (重量%) に従い通常の方法にて下記のように O/W エマルジョン剤形の消毒剤組成物を製造した。

【0102】

1) 水相部を 50 ~ 75 に加温して混合及び溶解させた。

2) 残りの油相部を 50 ~ 75 に加温して混合及び溶解させた。

3) 温度を 50 ~ 75 に維持しながら水相部と油相部とを混合し、ホモジナイザーによって O/W エマルジョン剤形の消毒剤組成物を製造した。

【0103】

また、製造した各組成物の剤形安定度と消毒力を下記のように評価した。

40

【0104】

剤形安定度は、各組成物を 1) 4 で 2 週間、2) 40 で 2 週間、3) 60 で 2 週間、そして 4) 4 ~ 60 の温度範囲で所定の条件にて温度を増減させる cycle 条件で 2 週間保管して評価した。各実験条件のいずれか一つでもオイル分離現象が発生すると、剤形安定度を「不安定」と表記し、すべての実験条件でオイル分離現象がないと、剤形安定度を「安定」と表記した。また、光学顕微鏡 (optical microscope、ECLIPSE NI-U、Nikon Corporation) によって安定化されたエマルジョン粒子とオイル分離現象が起きて不安定且つ不均一なエマルジョン粒子とを比較観察した (図 1 及び 2 参照)。

50

【 0 1 0 5 】

その結果、エタノールの含量が組成物中の 8 0 重量%になると、剤形安定度が低下することが確認された。したがって、一側面による本開示の O / W エマルジョン剤形の消毒剤組成物において、エタノールは、組成物中に 8 0 重量%未満、より具体的に 7 5 重量%以下で含まれることが剤形安定度の面で優れた効果を示すことが確認された。

【 0 1 0 6 】

消毒力は黄色ブドウ球菌 (S t a p h y l o c o c c u s a u r e u s : A T C C 6 5 3 8) を T S B (T r y p t i c s o y b r o t h) 培地に接種して 3 5 ° C で 2 4 時間培養し、培養液を P B S で希釈した希釈液を試験用菌液として用いて評価した。試験物質である各組成物を P B S に溶かしてから 9 6 ウェルプレートに入れ、用意した試験用菌液を 1 × 1 0 ⁶ C F U / m L で接種した後、黄色ブドウ球菌の接種から 1 分経過時の死滅率を測定して表記した。

10

【 0 1 0 7 】

その結果、エタノールの含量が組成物中に 1 0 重量%超、より具体的に 2 0 重量%以上含有されるとき、1 分以内に 9 9 . 9 9 9 % の死滅率を示すことが確認された。したがって、エタノールの含量が組成物中に 1 0 重量%超、より具体的に 2 0 重量%以上含有されるときに消毒剤として用い得ることが確認された。

【 0 1 0 8 】

また、製造した各組成物に対して 6 3 番スピンドル (s p i n d l e) が装着された粘度計 (D V 2 T L V T J 0 、 B r o o k f i e l d V i s c o m e t e r 、 U S A) で 1 2 r p m 条件にて 2 分間 3 0 ° C で粘度を測定した。その結果、エタノールの含量が比較的に低い比較例 1 - 1 の組成物は約 1 0 , 0 0 0 c p s 、エタノールの含量が高い比較例 1 - 2 の組成物は、約 1 0 0 c p s の粘度を有することが確認された。実施例 1 - 1 ~ 1 - 6 の組成物は、エタノールの含量の変化に応じて約 1 , 0 0 0 ~ 8 , 7 0 0 c p s の粘度を有する結果を示した。

20

【 0 1 0 9 】

【 表 1 】

	比較例 1-1	比較例 1-2	実施例 1-1	実施例 1-2	実施例 1-3	実施例 1-4	実施例 1-5	実施例 1-6
水	82.738	12.738	72.738	62.738	37.738	27.738	22.738	17.738
レシチン								
モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタン (2 0 E . O)	1	1	1	1	1	1	1	1
ステアリン酸グリセリル								
C 1 2 ~ 1 5 の安息香酸アルキル	5	5	5	5	5	5	5	5
ココナッツオイル								
オリーブオイル								
パームオイル								
スクアラン								
ツバキオイル								
カルボマー	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
エタノール	10	80	20	30	55	65	70	75
グリセリン	1	1	1	1	1	1	1	1
アミノメチルプロパノール	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062
剤形安定度	安定	不安定	安定	安定	安定	安定	安定	安定
死滅率 (%) 黄色ブドウ球菌の接種後 1 分経過時に測定	-4	99.999	99.999	99.999	99.999	99.999	99.999	99.999

30

40

50

【 0 1 1 0 】

実施例 2 . エタノールの含量の変化及び界面活性剤の種類による剤形安定度の評価
前記実施例 1 と同じ方法にて下記表 2 の組成 (重量 %) に従い O / W エマルジョン剤形の消毒剤組成物を製造した。

【 0 1 1 1 】

また、前記実施例 1 と同じ方法にて各組成物の剤形安定度を評価した。

【 0 1 1 2 】

その結果、エタノールの含量が高いとエマルジョン粒子が不安定になって剤形が分離する現象が生じた。しかし、界面活性剤として表 1 のようにソルビタン系界面活性剤を用いるか、表 2 のようにレシチン系界面活性剤を用いた場合、安定したエマルジョン剤形を示すことが確認された。

10

【 0 1 1 3 】

一方、界面活性剤の種類による各組成物の保湿感の差には有意な変化がなかった。保湿感は肌疾患を持っていない成人男女 20 名を対象に、同じ条件で 2 g の内容物を手の甲に塗るようにした後、内容物が乾燥した後の手の甲を擦って保湿感についてのアンケート応答を行うことで評価した。保湿感は下記の点数リストのうちの 1 点から 7 点までの点数を基準に評価した。各組成物の保湿感評価結果はその平均値を用いて比較した。

【 0 1 1 4 】

- 1 点：塗った後非常に乾燥する。
- 2 点：塗った後乾燥する。
- 3 点：塗った後やや乾燥する。
- 4 点：塗った後何の感じもない。
- 5 点：塗った後ややしっとりとした感じがする。
- 6 点：塗った後しっとりとした感じがする。
- 7 点：塗った後非常にしっとりとした感じがする。

20

【 0 1 1 5 】

【表 2】

	比較例 2-1	比較例 2-2	比較例 2-3	比較例 2-4	比較例 2-5	比較例 2-6	実施例 2-1
水	90.738	82.738	72.738	62.738	37.738	37.738	37.738
レシチン							1
ステアリン酸 PEG-100						1	
モノラウリン酸ポリオキシエチレンソ ルビタン(20E.O)							
ステアリン酸グリセリル	1	1	1	1	1		
C12~15の安息香酸アルキル	5	5	5	5	5	5	5
ココナッツオイル							
オリーブオイル							
パームオイル							
スクアラン							
ツバキオイル							
カルボマー	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
エタノール	2	10	20	30	55	55	55
グリセリン	1	1	1	1	1	1	1
アミノメチルプロパノール	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062
剤形安定度	安定	不安定	不安定	不安定	不安定	不安定	安定

30

40

【 0 1 1 6 】

50

実施例 3 . 界面活性剤の含量の変化による剤形安定度の評価

前記実施例 1 と同じ方法にて下記表 3 の組成（重量％）に従い O / W エマルジョン剤形の消毒剤組成物を製造した。

【 0 1 1 7 】

また、前記実施例 1 と同じ方法にて各組成物の剤形安定度を評価した。

【 0 1 1 8 】

その結果、界面活性剤としてソルビタン系界面活性剤を用いても組成物中の界面活性剤の含量が少なすぎるとエマルジョン粒子が不安定になり、界面活性剤の含量が多すぎると却って可溶化となり O / W 剤形を形成できないことが確認された。

【 0 1 1 9 】

【表 3】

	比較例 3-1	比較例 3-2	実施例 3-1	実施例 3-2	実施例 3-3
水	38.638	33.738	38.438	36.738	35.738
レシチン					
モノラウリン酸ポリオキシエチレンソ ルビタン(20E.O)	0.1	5	0.3	2	3
ステアリン酸グリセリル					
C12~15の安息香酸アルキル	5	5	5	5	5
ココナッツオイル					
オリーブオイル					
パームオイル					
スクアラン					
ツバキオイル					
カルボマー	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
エタノール	55	55	55	55	55
グリセリン	1	1	1	1	1
アミノメチルプロパノール	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062
剤形安定度	不安定	不安定	安定	安定	安定

【 0 1 2 0 】

実施例 4 . オイルの種類による剤形安定度及び保湿感の評価

前記実施例 1 と同じ方法にて下記表 4 及び 5 の組成（重量％）に従い O / W エマルジョン剤形の消毒剤組成物を製造した。

【 0 1 2 1 】

また、前記実施例 1 と同じ方法にて各組成物の剤形安定度を評価し、前記実施例 2 と同じ方法にて各組成物の保湿感を評価した。各組成物の保湿感評価結果はその平均値で表した。

【 0 1 2 2 】

その結果、オイルの種類に応じて異なる保湿感が示され、C 1 2 ~ 1 5 の安息香酸アルキル、ココナッツオイル、オリーブオイル又はパームオイルを用いる場合、良好乃至優れた水準の保湿感を示すことが確認された。特に、C 1 2 ~ 1 5 の安息香酸アルキルを用いたとき、最も高い保湿感を示した。

【 0 1 2 3 】

10

20

30

40

50

【表 4】

	比較例 4-1	比較例 4-2	実施例 4-1	実施例 4-2	実施例 4-3	実施例 4-4
水	37.738	37.738	37.738	37.738	37.738	37.738
レシチン						
モノラウリン酸ポリオキシエチレンソ ルビタン(20E.O)	1	1	1	1	1	1
ステアリン酸グリセリル						
C12~15の安息香酸アルキル			5			
ココナッツオイル				5		
オリーブオイル					5	
パームオイル						5
スクアラン	5					
ツバキオイル		5				
カルボマー	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
エタノール	55	55	55	55	55	55
グリセリン	1	1	1	1	1	1
アミノメチルプロパノール	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062
剤形安定度	安定	安定	安定	安定	安定	安定
保湿感 (7点満点)	3	3	6	5	5	5

10

20

【0124】

【表 5】

	実施例4-5	実施例4-6	実施例4-7	実施例4-8
水	37.738	37.738	37.738	37.738
レシチン	1	1	1	1
モノラウリン酸ポリオキシエチレンソ ルビタン(20E.O)				
ステアリン酸グリセリル				
C12~15の安息香酸アルキル	5			
ココナッツオイル		5		
オリーブオイル			5	
パームオイル				5
スクアラン				
ツバキオイル				
カルボマー	0.2	0.2	0.2	0.2
エタノール	55	55	55	55
グリセリン	1	1	1	1
アミノメチルプロパノール	0.062	0.062	0.062	0.062
剤形安定度	安定	安定	安定	安定
保湿感(7点満点)	7	6	5	5

30

40

【0125】

50

実施例 5 . オイルの含量の変化による剤形安定度及び保湿感の評価

前記実施例 1 と同じ方法にて下記表 6 の組成 (重量 %) に従い O / W エマルジョン剤形の消毒剤組成物を製造した。

【 0 1 2 6 】

また、前記実施例 1 と同じ方法にて各組成物の剤形安定度を評価し、前記実施例 2 と同じ方法にて各組成物の保湿感を評価した。各組成物の保湿感評価結果はその平均値で表した。

【 0 1 2 7 】

その結果、オイルの含量の変化に応じて剤形安定度や保湿感が変わることが確認された。オイルの含量が増加するとして保湿感評価指数が高くなることではなかった。

【 0 1 2 8 】

【表 6】

	比較例 5-1	比較例 5-2	実施例 5-1	実施例 5-2	実施例 5-3
水	41.738	26.738	40.738	36.738	27.738
レシチン					
モノラウリン酸ポリオキシエチレンソ ルビタン(20E.O)	1	1	1	1	1
ステアリン酸グリセリル					
C12~15の安息香酸アルキル	1	16	2	6	15
ココナツツオイル					
オリーブオイル					
パームオイル					
スクアラン					
ツバキオイル					
カルボマー	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
エタノール	55	55	55	55	55
グリセリン	1	1	1	1	1
アミノメチルプロパノール	0.062	0.062	0.062	0.062	0.062
剤形安定度	安定	不安定	安定	安定	安定
保湿感(7点満点)	3	4	6	6	5

【 0 1 2 9 】

以上、本開示の特定の部分を詳しく記述したところ、当業界の通常の知識を有する者にとって、このような具体的な記述は単に好適な実施態様であるに過ぎず、これによって本開示の範囲が制限されるものではないことは明らかであろう。したがって、本開示の実質的な範囲は添付の請求項とそれらの等価物によって定義されるといえよう。

10

20

30

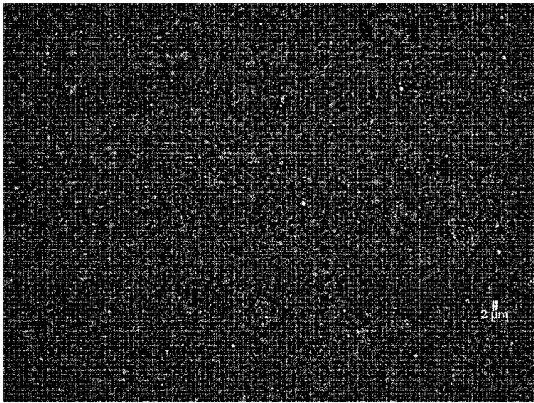
40

50

【 図 面 】

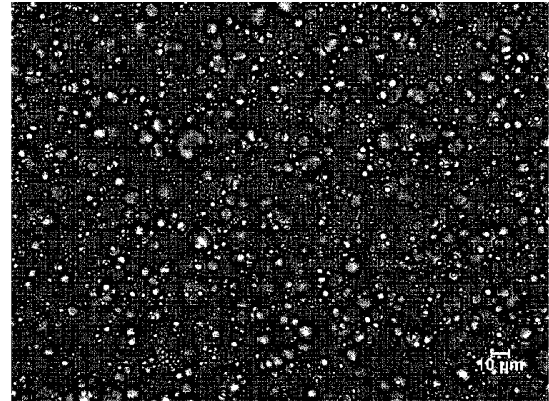
【 図 1 】

[図 1]



【 図 2 】

[図 2]



10

【 図 3 】

[図 3]



20

30

40

50

【 国際調査報告 】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/KR2021/011750

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER		
A61K 8/06(2006.01); A61K 8/34(2006.01); A61K 8/55(2006.01); A61K 8/60(2006.01); A61K 8/92(2006.01); A61Q 17/00(2006.01); A01N 25/04(2006.01); A01N 31/02(2006.01)		
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED		
Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) A61K 8/06(2006.01); A01N 25/04(2006.01); A01N 47/44(2006.01); A61K 8/60(2006.01); A61K 8/84(2006.01); A61K 8/88(2006.01); A61K 8/92(2006.01); A61Q 17/00(2006.01)		
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Korean utility models and applications for utility models: IPC as above Japanese utility models and applications for utility models: IPC as above		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) eKOMPASS (KIPO internal) & keywords: 소독제 (sanitizer, disinfection), 에멀전 (emulsion), 수중유 (oil in water, O/W), 에탄올 (ethanol), 계면활성제 (surfactant), 오일 (oil), 레시틴 (lecithin), 소르비탄 (sorbitan)		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	WO 2020-104553 A1 (ENGBLOM, Johan et al.) 28 May 2020 (2020-05-28) See pages 1, 5, 7, 8 and 17, and claims 1-18.	1-18
Y	FERREIRA, A. C. et al. Influence of Ethanol on Emulsions Stabilized by Low Molecular Weight Surfactants. Journal of Food Science. 2020, vol. 85, pp. 28-35 (publication date: 16 December 2019). See abstract, page 29 and Fig. 8.	1-18
A	CN 111374142 A (TIANTIANXIANGSHANG (NINGBO) MEDICAL TECHNOLOGY CO., LTD.) 07 July 2020 (2020-07-07) See entire document.	1-18
A	CN 107951746 A (NANJING JUSHA DISPLAY TECHNOLOGY CO., LTD. et al.) 24 April 2018 (2018-04-24) See entire document.	1-18
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: “A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance “D” document cited by the applicant in the international application “E” earlier application or patent but published on or after the international filing date “L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) “O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means “P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed “T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention “X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone “Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art “&” document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search 14 December 2021		Date of mailing of the international search report 15 December 2021
Name and mailing address of the ISA/KR Korean Intellectual Property Office Government Complex-Daejeon Building 4, 189 Cheongsaro, Seo-gu, Daejeon 35208 Facsimile No. +82-42-481-8578		Authorized officer Telephone No.

Form PCT/ISA/210 (second sheet) (July 2019)

10

20

30

40

50

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/KR2021/011750

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	CN 105362103 A (NANJING JUSHA DISPLAY TECHNOLOGY CO., LTD.) 02 March 2016 (2016-03-02) See entire document.	1-18

10

20

30

40

50

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.
PCT/KR2021/011750

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)			Publication date (day/month/year)
WO	2020-104553	A1	28 May 2020	CA	3120233	A1	28 May 2020
				EP	3656444	A1	27 May 2020
				EP	3883654	A1	29 September 2021
CN	111374142	A	07 July 2020	None			
CN	107951746	A	24 April 2018	None			
CN	105362103	A	02 March 2016	None			

10

20

30

40

50

국제조사보고서

국제출원번호
PCT/KR2021/011750

A. 발명이 속하는 기술분류(국제특허분류(IPC)) A61K 8/06(2006.01); A61K 8/34(2006.01); A61K 8/55(2006.01); A61K 8/60(2006.01); A61K 8/92(2006.01); A61Q 17/00(2006.01); A01N 25/04(2006.01); A01N 31/02(2006.01)		
B. 조사된 분야		
조사된 최소문헌(국제특허분류를 기재) A61K 8/06(2006.01); A01N 25/04(2006.01); A01N 47/44(2006.01); A61K 8/60(2006.01); A61K 8/84(2006.01); A61K 8/88(2006.01); A61K 8/92(2006.01); A61Q 17/00(2006.01)		
조사된 기술분야에 속하는 최소문헌 이외의 문헌 한국등록실용신안공보 및 한국공개실용신안공보: 조사된 최소문헌란에 기재된 IPC 일본등록실용신안공보 및 일본공개실용신안공보: 조사된 최소문헌란에 기재된 IPC		
국제조사에 이용된 전산 데이터베이스(데이터베이스의 명칭 및 검색어(해당하는 경우)) eKOMPASS(특허청 내부 검색시스템) & 키워드: 소독제(sanitizer, disinfection), 에멀전(emulsion), 수중유(oil in water, O/W), 에탄올(ethanol), 계면활성제(surfactant), 오일(oil), 레시틴(lecithin), 소르비탄(sorbitan)		
C. 관련 문헌		
카테고리*	인용문헌명 및 관련 구절(해당하는 경우)의 기재	관련 청구항
Y	WO 2020-104553 A1 (ENGBLOM, JOHAN 등) 2020.05.28 페이지 1, 5, 7, 8, 17, 및 청구항 1-18	1-18
Y	FERREIRA, A. C. 등, Influence of Ethanol on Emulsions Stabilized by Low Molecular Weight Surfactants, Journal of Food Science, 2020년, 85권, 페이지 28-35 (공개: 2019.12.16) 초록, 페이지 29 및 Fig. 8	1-18
A	CN 111374142 A (TIANXIANXIANGSHANG (NINGBO) MEDICAL TECHNOLOGY CO., LTD.) 2020.07.07 문헌 전체	1-18
A	CN 107951746 A (NANJING JUSHA DISPLAY TECHNOLOGY CO., LTD. 등) 2018.04.24 문헌 전체	1-18
A	CN 105362103 A (NANJING JUSHA DISPLAY TECHNOLOGY CO., LTD.) 2016.03.02 문헌 전체	1-18
<input type="checkbox"/> 추가 문헌이 C(계속)에 기재되어 있습니다. <input checked="" type="checkbox"/> 대응특허에 관한 별지를 참조하십시오.		
* 인용된 문헌의 특별 카테고리: "A" 특별히 관련이 없는 것으로 보이는 일반적인 기술수준을 정의한 문헌 "D" 본 국제출원에서 출원인이 인용한 문헌 "E" 국제출원일보다 빠른 출원일 또는 우선일을 가지나 국제출원일 이후에 공개된 선출원 또는 특허 문헌 "L" 우선권 주장에 의문을 제기하는 문헌 또는 다른 인용문헌의 공개일 또는 다른 특별한 이유(이유를 명시)를 밝히기 위하여 인용된 문헌 "O" 구두 개시, 사용, 전시 또는 기타 수단을 언급하고 있는 문헌 "P" 우선일 이후에 공개되었으나 국제출원일 이전에 공개된 문헌 "T" 국제출원일 또는 우선일 후에 공개된 문헌으로, 출원과 상충하지 않으며 발명의 기초가 되는 원리나 이론을 이해하기 위해 인용된 문헌 "X" 특별한 관련이 있는 문헌. 해당 문헌 하나만으로 청구된 발명의 신규성 또는 진보성이 없는 것으로 본다. "Y" 특별한 관련이 있는 문헌. 해당 문헌이 하나 이상의 다른 문헌과 조합하는 경우로 그 조합이 당업자에게 자명한 경우 청구된 발명은 진보성이 없는 것으로 본다. "&" 동일한 대응특허문헌에 속하는 문헌		
국제조사의 실제 완료일 2021년12월14일(14.12.2021)	국제조사보고서 발송일 2021년12월15일(15.12.2021)	
ISA/KR의 명칭 및 우편주소 대한민국 특허청 (35208) 대전광역시 서구 청사로 189, 4동 (문산동, 정부대전청사) 팩스 번호 +82-42-481-8578	심사관 정다원 전화번호 +82-42-481-5373	

서식 PCT/ISA/210 (두 번째 용지) (2019년 7월)

10

20

30

40

50

국제조사보고서
대응특허에 관한 정보

국제출원번호
PCT/KR2021/011750

국제조사보고서에서 인용된 특허문헌	공개일	대응특허문헌	공개일
WO 2020-104553 A1	2020/05/28	CA 3120233 A1 EP 3656444 A1 EP 3883654 A1	2020/05/28 2020/05/27 2021/09/29
CN 111374142 A	2020/07/07	없음	
CN 107951746 A	2018/04/24	없음	
CN 105362103 A	2016/03/02	없음	

10

20

30

40

서식 PCT/ISA/210 (대응특허 추가용지) (2019년 7월)

50

フロントページの続き

,RW,SD,SL,ST,SZ,TZ,UG,ZM,ZW),EA(AM,AZ,BY,KG,KZ,RU,TJ,TM),EP(AL,AT,BE,BG,CH,CY,CZ,DE,D
 K,EE,ES,FI,FR,GB,GR,HR,HU,IE,IS,IT,LT,LU,LV,MC,MK,MT,NL,NO,PL,PT,RO,RS,SE,SI,SK,SM,TR),O
 A(BF,BJ,CF,CG,CI,CM,GA,GN,GQ,GW,KM,ML,MR,NE,SN,TD,TG),AE,AG,AL,AM,AO,AT,AU,AZ,BA,B
 B,BG,BH,BN,BR,BW,BY,BZ,CA,CH,CL,CN,CO,CR,CU,CZ,DE,DJ,DK,DM,DO,DZ,EC,EE,EG,ES,FI,GB,GD
 ,GE,GH,GM,GT,HN,HR,HU,ID,IL,IN,IR,IS,IT,JO,JP,KE,KG,KH,KN,KP,KW,KZ,LA,LC,LK,LR,LS,LU,LY,
 MA,MD,ME,MG,MK,MN,MW,MX,MY,MZ,NA,NG,NI,NO,NZ,OM,PA,PE,PG,PH,PL,PT,QA,RO,RS,RU,
 RW,SA,SC,SD,SE,SG,SK,SL,ST,SV,SY,TH,TJ,TM,TN,TR,TT,TZ,UA,UG,US,UZ,VC,VN,WS,ZA,ZM,ZW

アンドディー センター

(72)発明者 キム , テギョン

大韓民国 17074 キョンギ - ド ヨンイン - シ ギフン - ク ヨンク - デロ 1920 アモーレ
 パシフィック アールアンドディー センター

(72)発明者 キム , チャンホ

大韓民国 17074 キョンギ - ド ヨンイン - シ ギフン - ク ヨンク - デロ 1920 アモーレ
 パシフィック アールアンドディー センター

(72)発明者 チョン , チャン ジョ

大韓民国 17074 キョンギ - ド ヨンイン - シ ギフン - ク ヨンク - デロ 1920 アモーレ
 パシフィック アールアンドディー センター

(72)発明者 チェ , サンギョン

大韓民国 17074 キョンギ - ド ヨンイン - シ ギフン - ク ヨンク - デロ 1920 アモーレ
 パシフィック アールアンドディー センター

F ターム (参考) 4H011 AA02 BA05 BB03 BC03 BC06 BC18 DA16 DC05 DG16